



任地へ最後の挨拶に来てくださった時の1枚。左から、所長、調整員、隊員2名、調整員、ナショナルスタッフ。

調整員さんの力添え

青年海外協力隊 2018年度1次隊 派遣国：トンガ王国 伊藤有未（三郷市）

協力隊の活動は、多くの方の支えがあって成り立ちます。今回は、任国で隊員を常日頃から支えてくださる調整員さんについて、ご紹介したいと思います。

JICA トンガ支所は、支所長以下、3名の駐在日本人、5名のナショナルスタッフで構成されています。中でも、ボランティア事業担当の調整員には、自身の担当調整員として、大変お世話になりました。当調整員の帰任に伴いまして、

これまでの約1年5ヶ月、どのようなサポートをしてくださったのか、下記3項目に分けてお伝えします。

A. 渡航直後のオリエンテーションおよび健康管理：期待と不安でいっぱいの新隊員の頃、トンガ生活の情報や注意点を教えてくださいました。時にはぶっち



トンガ在外研修時、隊員配属のオフィススタッフとお話中。

やけ話も。隊員と一線を引かず、赴任当初より気兼ねなく相談できる方でした。

B. 日々の活動への意見交換：自身の備忘録も兼ね、週次で簡易報告書を提出しています。意思が強すぎ、持論にこだわり、つい周りが見えなくなりがちな隊員活動。そんな時、過去の隊員としての経験や多くのボランティアを見てきた調整員の立場から、活動の方向性を見直すような意見や時に衝突も覚悟の真っ直ぐなアドバイスをくださったことで、現在充実した活動ができていると思います。心に留まった助言は書き留めて、今も見返すようにしています。

C. 第2回大洋州 NCDs 在外研修企画申請から実行：私の企画申請後より、JICA 本部の決裁から研修終了まで尽力してくださいました。同調整員が担当であったから、企画に乗り出したのも事実。準備期間には互いに感情的な場面もありましたが、一隊員としても成長できる機会を作っていただきました。

当レポートの添削、申請書対応等、この他にも多くの業務を迅速にこなしてください、私も活動に専念することができました。心強い調整員さんの帰国は正直不安ですが、これまで共にした時間を無駄にすることなく、日本で前向きな報告ができるよう、私も残りの数ヶ月、後悔のない活動にしたいと思います。



名前を聞いて、距離を縮める、さすが元隊員。現地の方にすぐ溶け込む方法を教わりました。